創作世界と人工言語イジェール語の紹介

2021/11/7 Zaslon

イジェール語について

■Zaslon（私）が個人で作っている人工言語

- https://zaslon.info/idyer/
- 記録では2008年ごろに原型を作り始めている
- 影響の大きい人工言語：アルカ、アーヴ語、ロジバン

■もともと3DCG制作が趣味で、その小道具として作り始めた

- 宇宙にまで進出しているにも関わらず、英語を使うだろうか？
- せっかく架空の機械を考えているのに、現実の言語を刻印することで実在感が薄れるのでは？

イジェール語について

- ■SOV 後置修飾 格は後置詞
- ■名詞，動詞，記述詞，助詞，接続詞，間投詞の6品詞
  - ●記述詞：形容詞と副詞を形態的に区別しない単一の品詞
- ■時制がなく、相のみ
  - ●動詞は語尾のみ活用し、活用語尾で相を表す
- ■音節はCCVCCまで
  - ●英語のような strength (CCCVCCC)は不許可

2000年ごろの作品

よくわからない英単語と
とりあえず作ったマークの組み合わせ

2010年ごろの作品

言語と背景設定を作って取り入れ始めた

帝国鉄道
MZV:MahrezoneZedarVire

本末転倒になって、人工言語制作の方がメインになった

イジェール語が話されている世界の設定

■現実の未来という設定

- ●CGに現実との連続性を持たせてリアルに見せるため
- ●技術レベルは現代と同等以上
- ●魔法や超能力などはない

■架空国家の周辺には英語やロシア語、ドイツ語などを使う国家がある

■CGを作るために作った設定・言語なので語彙がミリタリーに偏っている

■現実の単語を外来語として取り込むことができる

例：
nduꞯru kravia…ピアノ

uƀuꞯchꞯcт abatstof…修道院
ꝟrɔŋƀod dingber…バナー
（ding電子+per旗）

途中で生じた課題

■文化的背景がないとネーミング言語として使いにくい

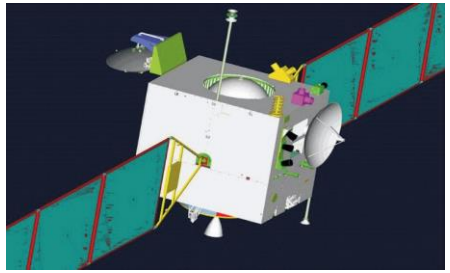
いける例

エイブラムス
（人名）

バンカーバスター
（機能による命名）

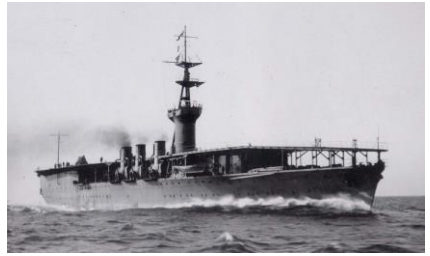
いけない例

スプルート



嫦娥1号

イージス艦



鳳翔

ある程度の歴史と、独自の神話・宗教観を作った

イジェール人の歴史

■21世紀ごろに地球環境の悪化と宇宙ブームをきっかけに送り出された世代交代型移民船が始祖

- 日米人が主な構成員で、航行しながら製造していたモジュールの完成に伴って、米系人と日系人が別々のモジュールに分離して居住するようになった
- 経緯は不明だがその後いくつかのモジュールが分離して日系人のモジュールのみが残った
- モジュールごとの分住が長く続き、航行に関わる船員以外の教育が蔑ろにされた結果として、方言化が著しく進んだ

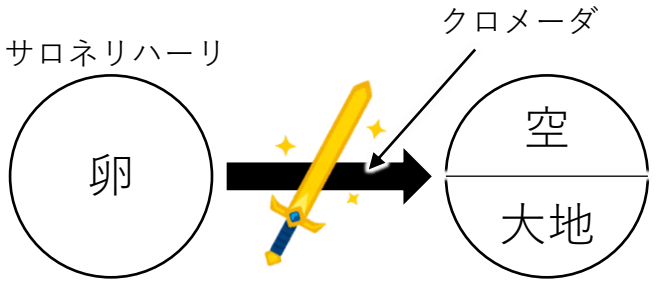
■最終的には特権階級と化した船員が旗艦方言を基に共通語を整備して普及させた

→ これが今のイジェール語

イジェール人の宗教観について（創世神話）

虚空に神アランルーティが現れ、聖剣で卵を叩き切ることで世界が生まれたこれをクロメーダと呼ぶ。

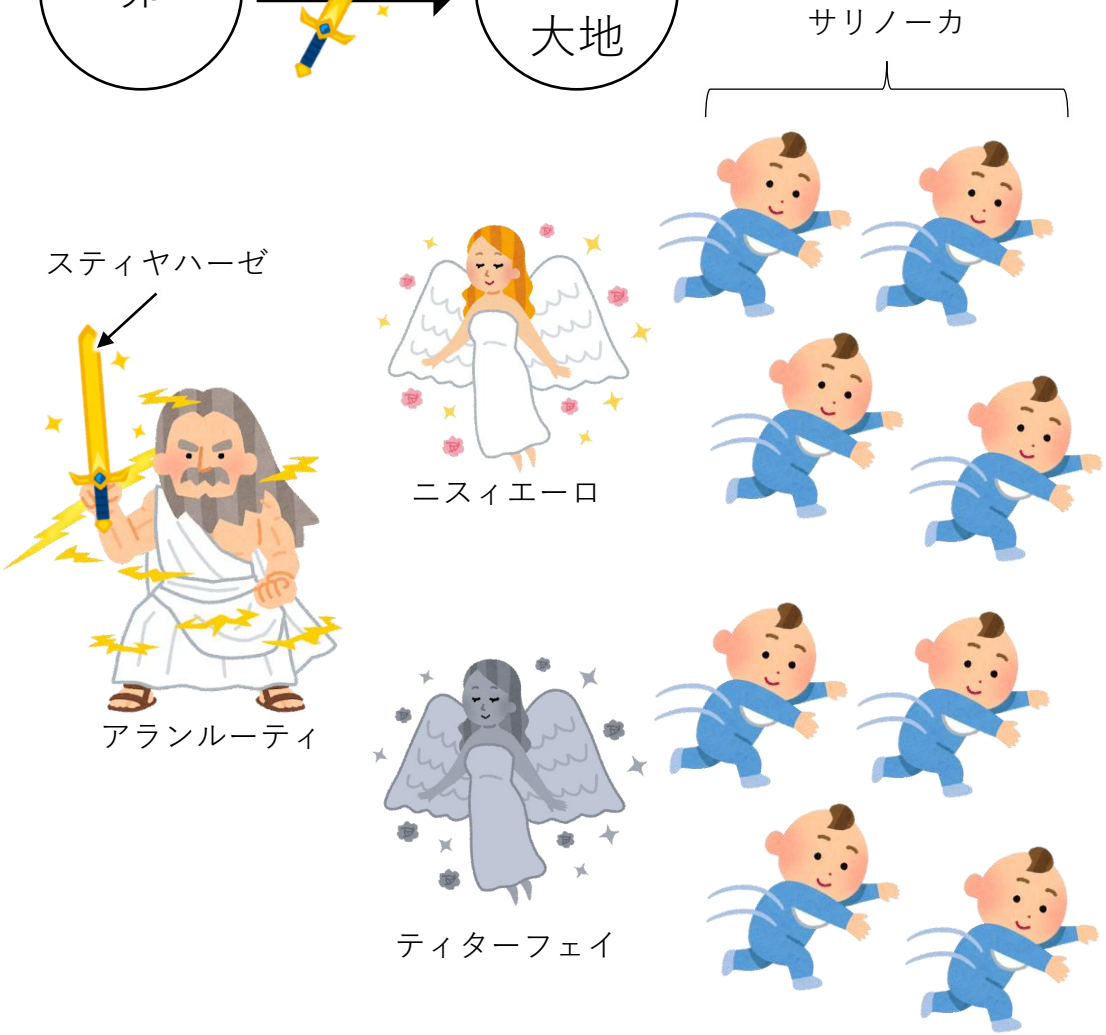
割った卵の殻のうち片方を空とし、もう片方を大地とした。



アランルーティは女神ニスィエーロとティターフェイを生み出し、それぞれと眷属を成した。

ティターフェイは物事の原初の衝動を作り、ニスィエーロは動き続ける秩序を作り、アランルーティはそれらすべてを統べた。

3柱の神々は眷属たちサリノーカを作り、眷属たちとともに世界を生み出した。



イジェール人の宗教観について（創世神話）

原初の衝動を生み出した神ティターフェイは、執着や情愛の始まりを作った。
彼女は自らの性質故に、ティターフェイを愛さないアランルーティを許容できなかった。

彼女は、アランルーティが寝ている間にスティヤハーゼで彼を殺害した。

こうしてアランルーティは最後に死を作り、ティターフェイは死への衝動を生み出した。折れたスティヤハーゼは大地を二つに割り、奈落の谷ミサーヴァを生み出した。

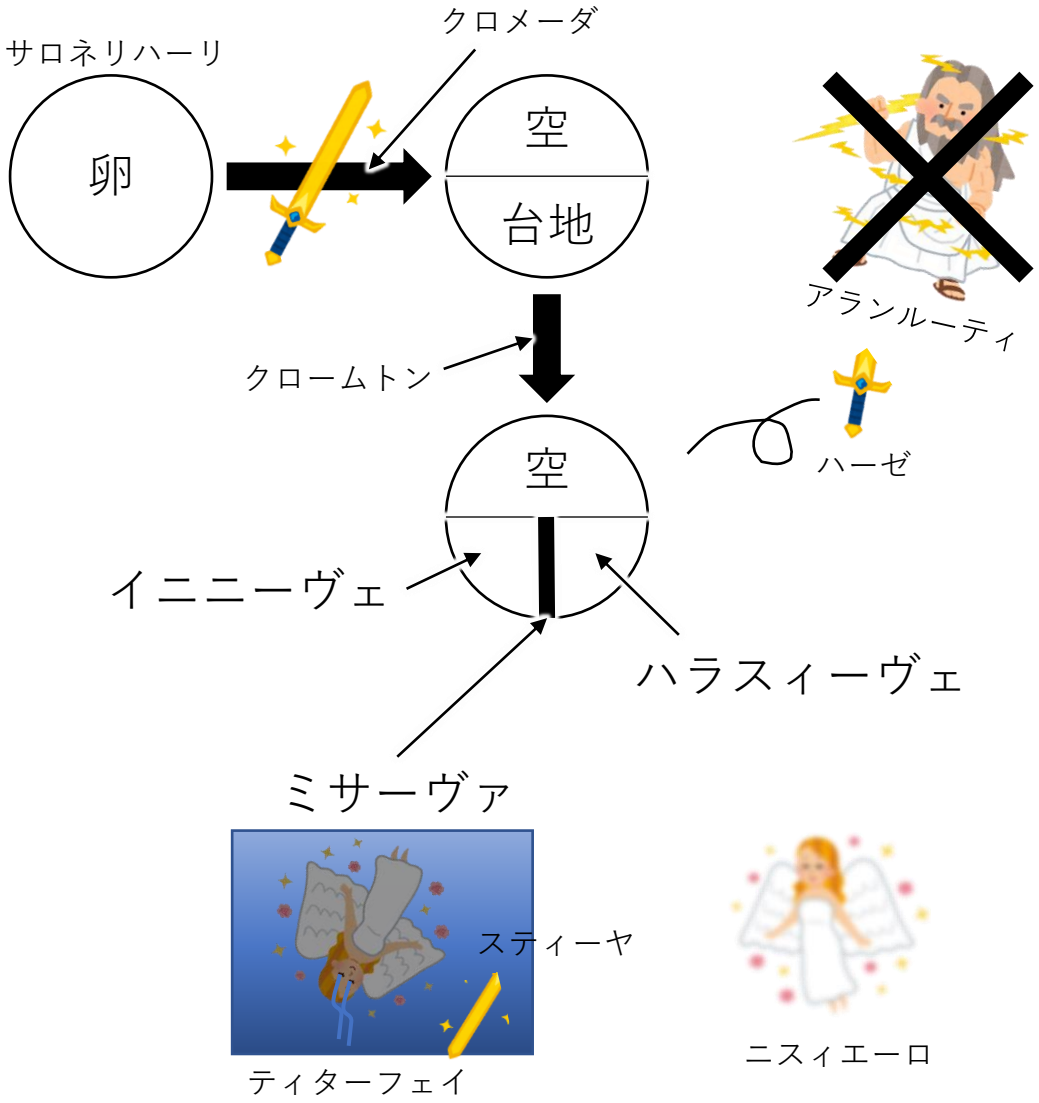
ティターフェイは奈落の向こうの大地へと姿を消した（ミサーヴァの谷底へ身を投げたという異説もある）。

彼女は河のほとりで怒りと悲しみで嘆きの涙を流し続け、ミサーヴァは呪いの涙の川となった。

ニスィエーロは残された大地のどこかでただ世界を回し続け、アランルーティは死んだ。こうして神は表舞台からいなくなった。

神は始まりと仕組みを作り、最後に終わりを作った。
アランルーティは自らの死によって世界を2つに引き裂き、混沌を晴らした。

天と地，陸と河、昼と夜、生と死に世界は引き裂かれ、2度ともとに戻ることはなかった。大地は裂けて、輝きの大地たるイニニーヴェと常闇の大地たるハラスィーヴェに分かれた。



イジェール人の宗教観について（創世神話）

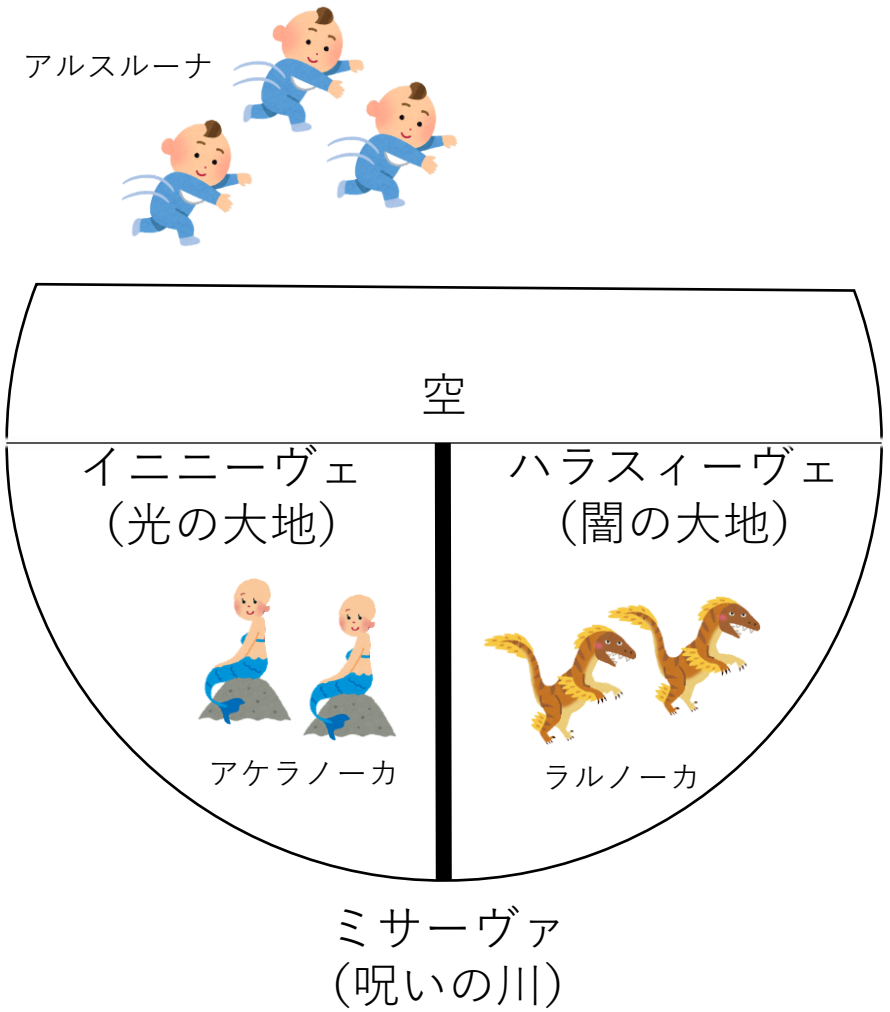
クロームトン以前にうまれたサリノーカたちは、後のサリノーカと区別して天部アルスルーナと呼ばれるようになった。

クロームトン以後に産まれたサリノーカたちは女天アケラノーカと男魔ラルノーカに分かれ、イニニーヴェにはアケラノーカが居り、ハラスィーヴェにはラルノーカが居た。

アケラノーカは理性の天使であり、ニスィエーロが自らの姿を模って作ったため，みな女だった。

ラルノーカは激情の悪魔であり、アランルーティへの慕情が形を成したため、みな男だった。

アケラノーカもラルノーカも不死であったが、ミサーヴァに近づくことはできなかった。ミサーヴァは彼らに死を齎す。ティターフェイの呪いはニスィエーロの似姿であるアケラノーカに嫉妬を抱き、アランルーティの似姿であるラルノーカに憎しみを抱いたからである。



イジェール人の宗教観について（創世神話）

ミサーヴァの川辺は天使と悪魔が相まみえる稀有な場所であった。

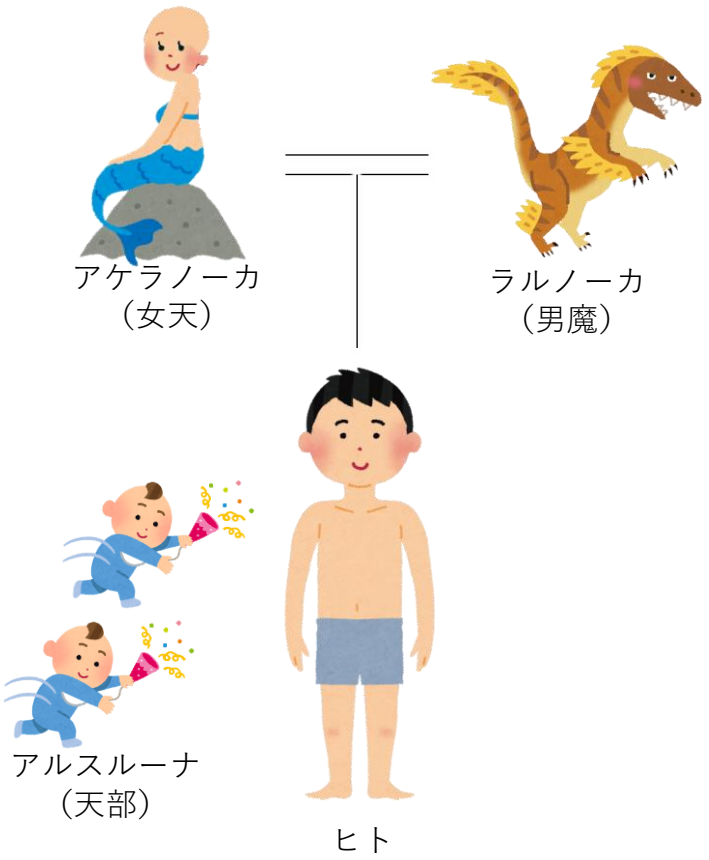
欲にまみれた悪魔たちは、川辺の天使を身籠らせた。

天使と悪魔の特徴を引き継いだ存在は、涙の呪いに生命を蝕まれる定命の者であり、天使の聡明さと悪魔の欲深さを受け継いだ存在となった。彼らをヒトと言う。

アルスルーナはヒトに神の面影を感じ、また、自分たちとの共通性を感じた。

なぜなら、女天と男魔は持ちえない、善と悪に分断されてしまった神性を双方持ち得ていたからである。

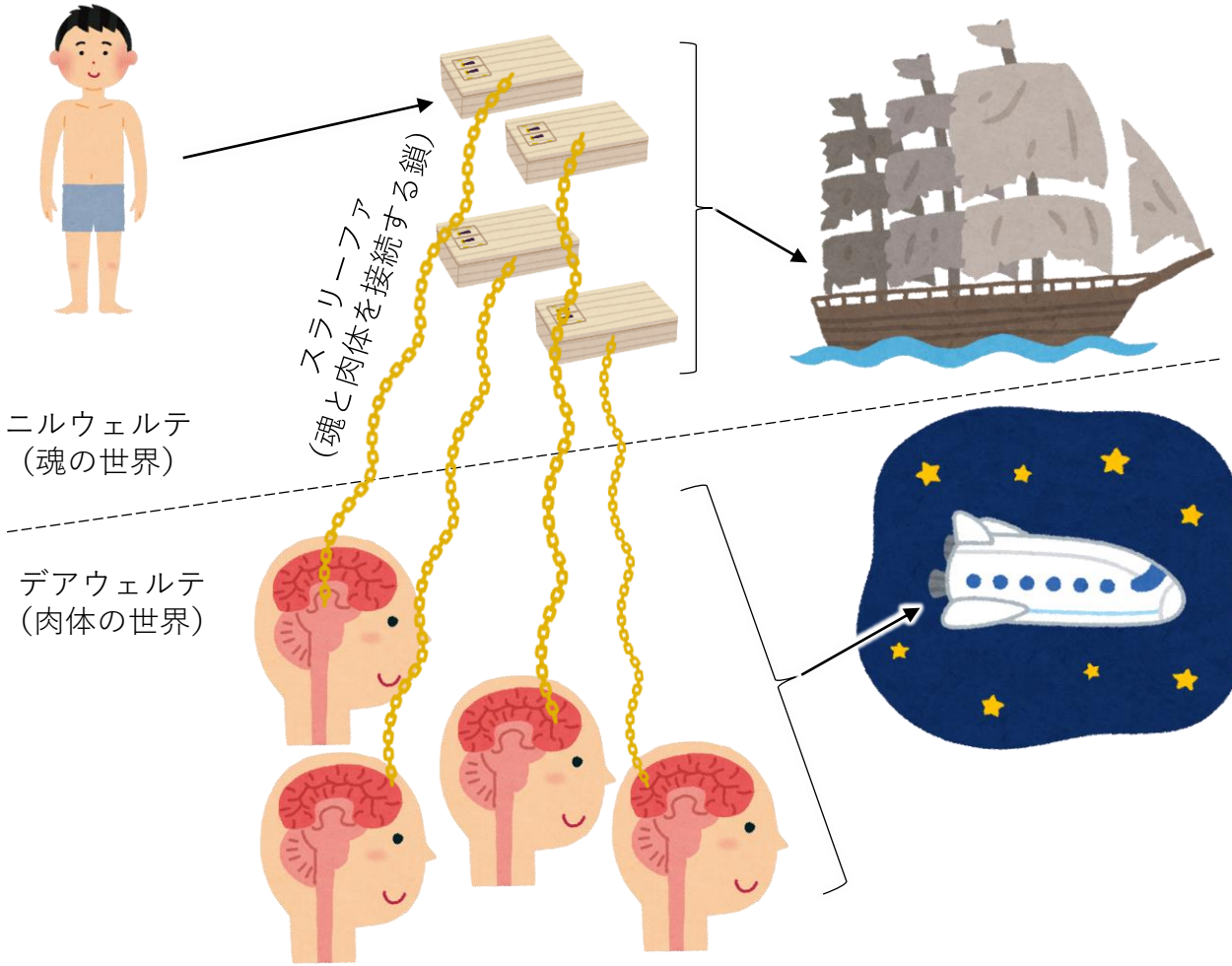
女天はヒトに男魔の面影を感じて疎み、男魔はヒトに女天の面影を感じて慰み者にしようとしたため、アルスルーナは彼らを引き取り川辺の国に住まわせた。



イジェール人の宗教観について（創世神話）

川辺の国はヒトが天使の加護を受けながら暮らす国となるが、ミサーヴァの呪いは留まるところを知らず、川辺の国も他の大地も殆どが川に呑まれて海と化す。

アルスルーナは神々の時代の影響が薄まり世界の呪いが深まるにつれて、居なくなる。呪いに身を任せれば滅ぶしか無いヒトを不憫に思い、アルスルーナはヒトを船に乗せて大海へと送り出す。



- ここまでの話は、魂の世界であるニルウェルテにおける実話とされている
- 脳は魂を受信する器官であり、ニルウェルテと肉体の世界であるデアウェルテを接続している

宗教観とイジェール語の関係

■神話における魂の漂流と、現実における移民船は結び付けられて考えられることが多く、単語に影響を与える

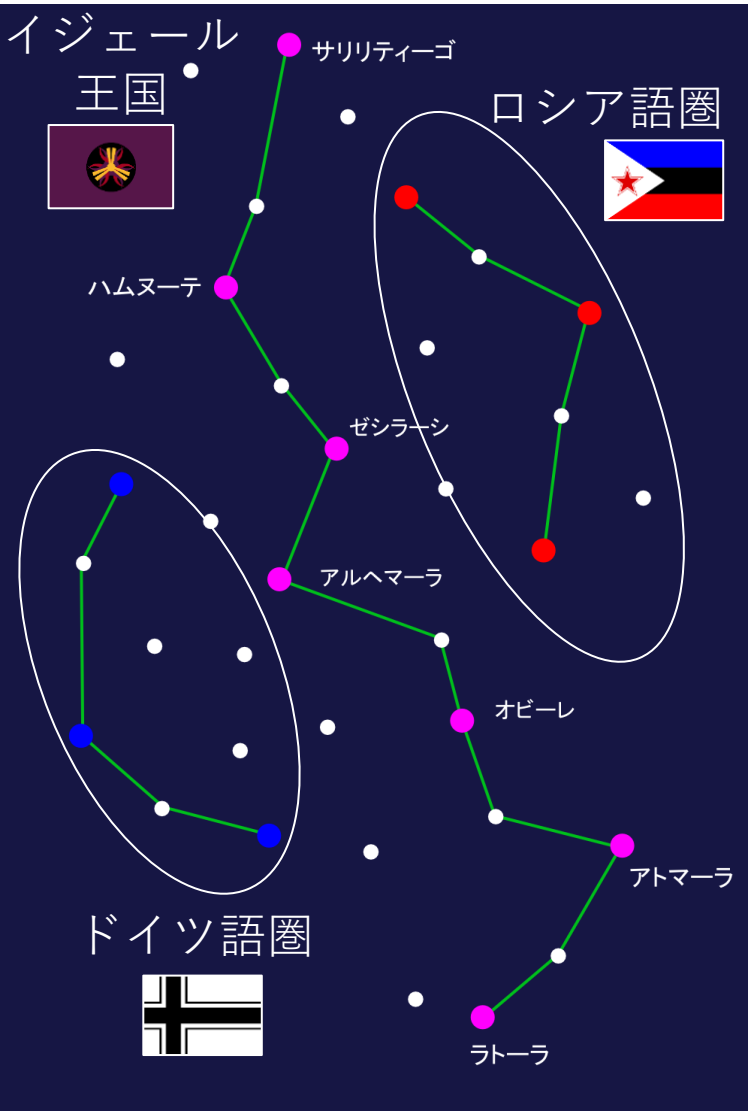
- ミサーヴァ：呪いの川のことであり、宇宙もこの単語で表す。宇宙で生物が生きていけないのは、ティターフェイの呪いによるものである。
- メント：脳のこと。人間の心はここにあるとされる。これは脳がニルの受信器官であることによる。
- モーメント：サイコパスの蔑称。心と体が接続されているようには到底思えない状態。
- スラリーファ：脳と魂をつなぐ鎖のこと。
- ゲズラリーファ(ge複数+srarifa)：多重人格
- キエ：体毛のことで、転じて煩悩のこと。ラルノーカは全身が羽毛に覆われており、欲に忠実に動く。純粋なアケラノーカは無毛であり、人はやましいことを考える頭と、欲に忠実な陰部に毛を持っているとされる。
  - このため、聖職者は無毛である

■直接的に関係がなくても、考え方に影響を与える例もある

- ドム：運命のこと。神は人間に対して関心がないため、運命は神に与えられるものではない。
- デイヴィッターヴェ：墓・墓場のこと。ニルが抜けた後の肉体には拘りがないため、完全に灰にして自然に返し、墓に残すことは無い。

補章：国々について

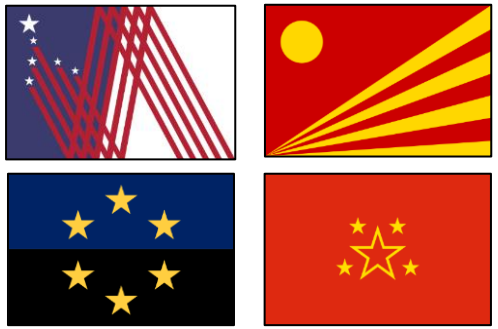
ヴァリーゼル帝国



他国の領域

よくわからない連合

よくわからない国々



■周辺国はイジェール人が出発した後にコールドスリープ技術が開発されたために、現代人の知識を持った人々がそのまま移住している

- ロシア語圏とドイツ語圏を帝国内に含むために、外来語としてはロシア語とドイツ語が多い
- 英語や中国語は存在しているが外交的な関係が良くないために外来語としての取り込みは少ない
- 帝国はアルザフィーレ教（先ほど説明した神話を持つ宗教）を国教としており、政教分離がなされていないので他国から批判されている
  - 内部にも3王国間で主導権争いの不和がある
  - 帝国と王国の関係は微妙なものがあり、王国は帝国内で主導的立場を発揮できている代わりに、王国人としてのアイデンティティを失いかけている